

## 観光を考慮した橋の計画に関するアンケート

八戸工業大学 正会員 長谷川 明

○ 八戸工業大学 学生員 遠藤 考則

## 1. はじめに

橋は周囲の景観に影響を与えるほどの存在感とその構造の美しさから観光資源としての利用価値も見いだされている。橋のライトアップなどは明らかに観光客を意識したものであるし、橋詰にポケットパークというトイレと駐車場が整備された橋を眺望できる小休憩所を設けている橋も建設されている。そして観光会社の観光コースの中に橋が取り入れられていることなどからも橋は観光の分野においても大きな役割を果たしていることが分かる。しかし、観光に対応した橋の建設に関わる体系的な調査が進められていないのが現状である。本研究はアンケート調査を行うことによって橋を観光の視点からみた場合、どのような評価尺度が重要視されるかを数量化2類による分析で明確にすることを目的としている。また同時に将来建設される橋に対する要望に関する設問にも回答していただき、業種・性別・年代による相違が見られるか分析した。

## 2. アンケート概要

アンケートの対象は日本観光協会の会員名簿に登録のある行政・観光協会・観光団体・運輸交通関係など観光に係る機関の職員とし、各機関の代表一人に回答をお願いした。調査は郵送で行い、調査期間は平成10年8月2日から9月15日である。送付総数は831通、回収された回答用紙は457通で回収率は55.0%である。なお数量化2類に用いたサンプルは298通(35.9%)である。回答者は男性368人(80.5%)、女性85人(18.6%)と男性が多く、年代別では20歳代104人(22.8%)、30歳代136人(29.8%)、40歳代120人(26.3%)、50歳以上92人(14.0%)となり、分散した回答が得られた。また、業種別では送付数の多かった行政関係と観光協会の回答者がそれぞれ198人(43.3%)、127人(27.8%)となり、併せて全体の70%を占める割合となった

## 3. 数量化2類の評価項目について

本研究では観光における橋の貢献度を総合指標とし、総合指標の評価項目を①橋の構造形式やデザイン、②橋と景観の調和、③橋の周辺施設の充実度、④橋の交通機能とした。①～④を中間指標と呼び、中間指標を評価するいくつかの項目を設けそれを個別指標呼ぶことにする。個別指標による中間指標の評価を第1段階の評価、中間指標による総合指標の評価を第2段階の評価とした。第2段階の評価には①～④の項目のほかに重要だと思われる項目としてライトアップ実施の有無、橋の話題性を加えて評価をおこなった。全評価項目を図1に示す。

各分析で得られた最大レンジ幅を1.000として評価項目に重みづけをし、これを重要度とした。これにより各評価項目が観光における橋の評価にどれだけ影響を与えるか判断した。

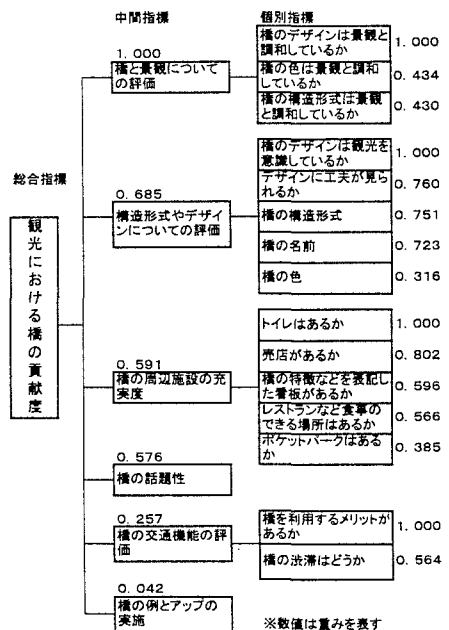


図1. 各項目の重要度を表した評価構造図

#### 4. 結果と考察

##### (1) 数量化2類による重要度

数量化2類による分析結果は図1の通りである。「橋の観光における貢献度」の総合指標の評価には、橋と景観の調和に関する中間指標の重要度が高い。ライトアップの実施状況に関しては、ライトアップを実施している橋の方がよい評価に寄与するが重要度は最低で、ほとんど評価に影響を与えない。要因としては観光する時間帯とライトアップする時間帯のずれが考えられる。

「橋の構造形式やデザイン」の中間指標の評価に対しては、「橋のデザインは観光を意識しているか」という個別指標が最も重要度が高い。橋の色彩はほとんど評価に寄与しない。「橋と景観の調和」という中間指標には「橋のデザインは景観と調和しているか」という個別指標の重要度が高く、橋の構造形式・色彩に関する個別指標を2倍以上引き離している。

「橋の周辺施設の充実度」という中間指標には、トイレ・売店など小休止できる施設に関する個別指標の重要度が高い。どの施設も設置してある方がよい評価に寄与する。

「橋の交通機能」という中間指標には、交通機能の評価には橋を利用するメリットがあるかという個別指標の重要度が高い。

##### (2) 要望意識の調査

観光を考慮した場合橋に構造・色・デザイン・施設などの面から望むことをそれぞれ択一式で回答してもらった。ここでは業種別デザインの要望、年代別ライトアップの要望、施設設置の要望について述べる。図2に業種別デザインの要望を示す。どの業種でも圧倒的に周辺景観と調和したデザインを選択している。他の業種より観光協会関係が地域性を生かしたデザインを望んでいることがわかる。図3に年代別ライトアップ実施の要望を示す。若い年代ほどライトアップの要望が多くなっていることがわかる。図4に周辺施設の要望を示す。どの施設も観光のためには必要であると考えられている。

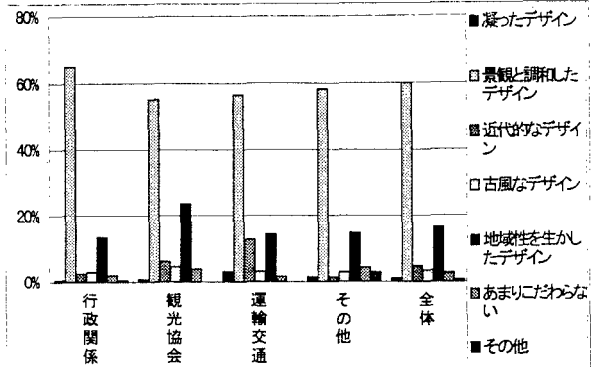


図2. 職業別希望デザイン

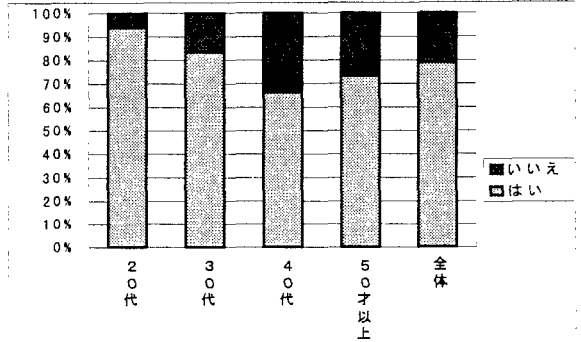


図3. 年代別ライトアップ実施希望

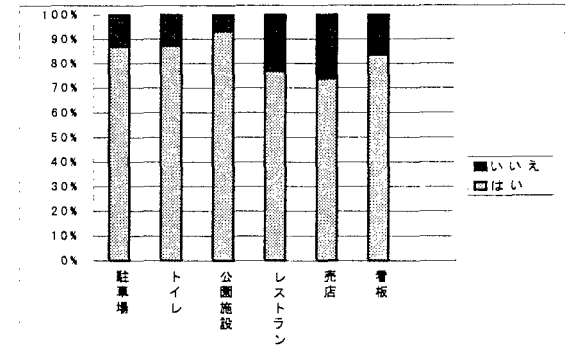


図4. 周辺施設要望

本研究を進めるにあたり八戸高等専門学校今野恵喜助教授の指導を受けた。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献1) 田中豊・垂水共之：統計解析ハンドブック多変量解析，共立出版株式会社，1995

2) 今野恵喜：都市内道路の快適性について，1990：21世紀のバス運行のあり方に関する市民意識調査，